

通信・ITネットワークの分野では、日々新しい技術が開発され、より効率的で、より安価なサービスが次々と生み出されています。知らないことは、イコール企業利益の損失です。そこで私たち大和電設工業は、情報通信やITソリューションの『知って得する最新情報』を、お世話になっている皆様に定期的にお伝えしていきます。隔月発刊のDDK通信、ぜひお楽しみください。

VR（バーチャルリアリティ）はゲームだけじゃない！

ゴーグル型のディスプレイを使った疑似体験は、様々な分野で活用が始まっています。最初に登場したのは1990年代後半だったと記憶していますが2016年10月にPlayStation VRが、ゲーム端末として登場すると一気に加速度的に色々な分野での活用が検討され実用化されつつあります。

PlayStation VRには加速度センサー、ジャイロセンサーを内蔵、頭部の動きにあわせて画像も移動し、1秒間に90回または120回の高速度動画（テレビは60回/秒）と色彩描写の優れているディスプレイの実装でリアルな3D画像を体感できます。

スマホにジャイロセンサーが内蔵されていることからスマホを利用するゴーグルも数多く発売されています。リアル性を必要としなければ非常に安価で購入することができます。



iPhone スマホ対応の
3D VRゴーグル
DN-914295



VRの利用としては、頭部の動きにあわせて風景を楽しむことができることから、旅行会社での疑似観光や不動産業での遠方から部屋の居心地を体感するなどニーズが広がっています。

VR用の3D動画や360度パノラマ画像はインターネットからも簡単に入手できYouTubeにも数多くアップされていて無料で楽しむ事ができます。

■ プロモーション3D動画

スマートフォンで最新のYouTubeアプリを使って3DVR動画を再生すると、右下にメガネボタンが現れるので、これをタップすると左右に分かれた3D映像が表示されます。再生動画は3Dゴーグルを使って視聴できます。3Dゴーグルにはレンズが内蔵されていてピントが合うように設計されています。



■ 建築現場安全VR体感

「建設現場における仮設足場からの墜落」高所作業での危険性、安全帯の重要性を再認識することが目的となっています。体験者は実際にVR空間内で自分の手足を認識しながら歩くことで、よりリアルな体験が可能になっています。



■ 医療分野での活用

医療分野でも手術訓練や遠隔手術でも利用が広がっています。手術では患者の命を預かるゆえに失敗は許されません。そこでCTで撮影した画像で患者さんのVR解剖図を作成し手術シミュレーションを行ったり医学生の治療トレーニングに用いられます。



最近ではVRコンテンツを自分で作成するための360度パノラマカメラやソフトウェアが簡単に入手できます。個人や企業でもその活用を検討できるようになりました。VRはゲームやレジャーだけでなく「体感できる」と言うことや普通ではありえないアングルで物を見ることができるよう活用できる場面は多くあるのではないのでしょうか。今後の広がりが期待できます。



■手軽に360度撮影を行うことができるRICOH THETA Sを使ってプロモーション画像の作成